



Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension

インストールガイド

2017年9月

バージョン 1.2.1

はじめに

はじめに

このドキュメントでは、Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension (Cisco TMSAE) のシステム要件とインストール手順について説明します。

Cisco TMSAE は、Cisco TelePresence Management Suite (Cisco TMS) のオンライン分析処理 (OLAP) システムで、ビデオネットワークに高度なレポート機能を提供します。これはビジネス インテリジェンス (BI) アプリケーション、カスタム ビルト アプリケーションおよび OLAP キューブに接続できるその他のアプリケーションと統合されます。最もよく使用されるクライアントは、Microsoft Excel です。

Cisco TMSAE は、3 つの要素で構成されています。

- 既存の Cisco TMS サーバにインストールされるアプリケーション ソフトウェア。
- 既存の Microsoft SQL サーバにインストールされるデータ ウェアハウス データベース。
- データにアクセスするために使用されるクライアント。

技術概要の詳細については『[Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension Administrator Guide](#)』を参照してください。

インストールの要件

Cisco TMS サーバ

Cisco TMSAE は、Cisco TMS サーバにインストールする必要があります。通常、ETL (抽出、変換、読み込み) ジョブの影響はそれほど大きくなく、Cisco TMS の運用上の要件が増えることはありません。

Cisco TMS	バージョン 12.6 ~ 14.3
オペレーティングシステム	<ul style="list-style-type: none"> • Windows Server 2008 (32 ビットまたは 64 ビット) • Windows Server 2008 R2
.NET	<p>バージョン 3.5</p> <p>Cisco TMSAE は .NET 4.0 にも対応しています。インストーラの処理を進める前に、.NET 3.5 をインストールする必要があります。</p>
ディスクの空き容量	ETL (抽出、変換、読み込み) サービスのインストールに 20 MB
その他の要件	IIS 7 をインストールするには、IIS 6 互換コンポーネントがインストールされている必要があります。Cisco TMS サーバにはすでにインストールされています。

インストールの要件

Analytics Extension のオプション キー

Analytics Extension インストーラを実行する前に、Analytics Extension オプション キーを Cisco TMS に追加する必要があります。オプション キーは 113612XX-X-XXXXXXXX の形式をとり、シスコ パートナーまたはリセラーに連絡して入手できます。

オプション キーを有効するには、次の手順に従います。

1. Web ブラウザを開き、Cisco TMS Web サイトにログインします。この手順を実行するには、サイト管理者のアクセス許可が必要です。
2. [管理ツール (Administrative Tools)] > [設定 (Configuration)] > [全般設定 (General Settings)] に移動します。
3. [オプションキーの追加 (Add Option Key)] をクリックし、プロンプトを表示してオプション キーを追加します。

オプション キーが追加されると、[管理ツール (Administrative Tools)] の下に [Analytics Extension] という名前のメニュー項目が新しく表示されます。

データ ウェアハウスの SQL サーバ

Cisco TMSAE は、既存の Cisco TMS SQL サーバの要件に影響しません。しかし、若干の再構成が必要な場合があります。「[Cisco TMS SQL サーバの設定](#)」 (ページ 6) を参照してください。

SQL Server	<p>Microsoft SQL Server 2005 SP3 の Standard Edition および Enterprise Edition</p> <p>Microsoft SQL Server 2008 または 2008 R2 の Standard Edition および Enterprise Edition</p> <p>(32 ビットまたは 64 ビットのエディションがサポートされている)</p> <p>注：Cisco TMSAE は、Microsoft SQL Server 2008 をサポートしている Cisco TMS バージョン 15.5 までのみをサポートします。Cisco TMS バージョン 15.6 以降では、Microsoft SQL Server 2008 のサポートが廃止されました。このため、Cisco TMSAE は Cisco TMS 15.6 およびそれ以降では動作しません。</p>
必要なコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"> • SQL データベース サービス • Analysis Services <p>両方のコンポーネントが同じインスタンス名を使用し、同じサーバ上にある必要があります。</p> <p>SSAS Windows サービスは、LocalSystem として実行するように設定する必要があります。SSAS を別のアカウントで実行するようにインストールしている場合は、このアカウントにリレーショナル データベース (デフォルトの名前: <code>tmsng_dwh</code>) への読み取りアクセス権を与えなければ、ETL ジョブを実行できません。</p>
接続	<ul style="list-style-type: none"> • TCP/IP プロトコルを有効にする必要があります。 • 名前付きインスタンスを使用している場合は、SQL Server Browser を実行している必要があります。
ディスクの空き容量	<p>初期インストールで 150 MB</p> <p>データ セットの拡大に合わせて追加の容量が必要になります。データ ウェアハウスとキューブは、ほとんどのケースで、ソースの Cisco TMS データベース サイズの約 20 % になります。(これは、Cisco TM データベースが定期的にページされない場合です)</p>

インストールの要件

SQL Server Analysis Services のインストールと実行では、Microsoft が提供する以下のガイドが役に立ちます。

- [Installing SQL Server Analysis Services \(SQL Server 2005\)](#)
- [Considerations for Installing Analysis Services \(SQL Server 2008\)](#)

インストール中、SQL サーバをデータ ウェアハウス サーバに指定します。Cisco TMS が使用する SQL サーバを使用しないことをお勧めします。

Microsoft SQL Server Express Edition を使用する Cisco TMS のインストールは、この SQL サーバをそれぞれのデータ ウェアハウス サーバとして再利用できないため、データ ウェアハウス サーバには別の SQL サーバを指定する必要があります。Cisco TMS データベースでは、必要に応じて、SQL Server Express を継続的に使用できます。

SQL Server Management Studio

「[Cisco TMS SQL サーバの設定](#)」（ページ 6）および「[付録：データベースの事前設定](#)」（ページ 16）の手順は、管理者が SQL Server Management Studio にアクセスできるものとして説明しています。

ユーザ権限とサービス ユーザ アカウント

インストールで必要になる、セキュリティが最小限のアクセス許可とサービス ユーザ アカウントです。SQL のログイン情報とアクセス許可は、インストーラを実行する前に作成する必要があります。

- Cisco TMS サーバにアクセスできるローカル管理者。
- Cisco TMS アプリケーション内にアクセスできるサイト管理者。
- SQL サーバインスタンスで *sysadmin* サーバ役割を持つアカウント。
- インストールを実行するユーザ アカウントに Analysis Services インスタンスに対するサーバ全体の管理上のアクセス許可が与えられていること。
- データ ウェアハウスのサービス ユーザとして振る舞う、既存の Windows ドメイン ユーザ アカウントのユーザ名（ドメイン\ユーザ名形式）とパスワード。
 - 指定したアカウントには、データ ウェアハウス サーバ、データベース、キューブにデータを書き込む、およびデータにアクセスするために必要な権限が自動的に与えられる。
 - このアカウントには、管理者ではない専用の Windows サービス アカウントを使用することが推奨される。すべての Windows サービス アカウントと同様に、アカウントは [パスワードは無期限です (Password never expires)] オプションを有効にして作成する。
- Cisco TMS SQL サーバインスタンスの有効な SQL ログイン情報、および Cisco TMS データベースに対して少なくとも *db_datareader* の役割を持つユーザ。

個々の役割とサーバについては、『[Cisco TMSAE Administrator Guide](#)』の Cisco TMSAE のコンポーネントと役割のセクションで説明しています。

SQL 管理者権限は、必要に応じて別の SQL 管理者から与えることができます。詳細については、「[付録：データベースの事前設定](#)」を参照してください。

インストールの要件

クライアント ソフトウェアの要件

Microsoft SQL Server Analysis Services に接続できるクライアントであれば使用できます。Microsoft でサポートされている技術には以下があります。

- OLE DB for OLAP
- ADOMD または ADOMD.NET
- XML for Analysis

ネットワークの要件

これらは、Cisco TMSAE コンポーネントに関するネットワーク要件です。

データ ウェアハウス サーバ

SQL Server

SQL サーバが使用するデフォルトのポートは、宛先ポート TCP 1433 および UDP 1434 です。SQL サーバの使用ポートの再設定について詳しくは、「[Cisco TMS SQL サーバの設定](#)」(ページ 6) を参照してください。

アクセス元：Cisco TMS Web サーバ、データ ウェアハウスの分析サービス インスタンス

Analysis Services

Analysis Services が使用するデフォルトのポートは、宛先ポート TCP 2383 および UDP 2382. です。

アクセス元：クライアント、Cisco TMS Web サーバ

Cisco TMS SQL サーバ

SQL サーバが使用するデフォルトのポートは、宛先ポート TCP 1433 および UDP 1434 です。

アクセス元：データ ウェアハウス SQL サーバ インスタンス、Cisco TMS Web サーバ

Cisco TMS Web サーバ

Cisco TMSAE から Cisco TMS Web サーバに新しい接続は作成されません。

Windows Server 2008 ファイアウォール設定

Cisco TMS が Windows Server 2008 マシンにインストールされている場合、Windows ファイアウォールは SQL サーバの通信を妨げます。管理者は、次のいずれかを選択して実行できます。

- Windows ファイアウォールを無効にする
- SQL サーバに必要なポートをオープンするように設定する

Cisco TMS SQL サーバの設定

Cisco TMS に組み込まれている SQL サーバは、名前付きインスタンスを使用します。名前付きインスタンスは、デフォルトではダイナミック TCP ポートを使用します。つまり、データベース エンジンを開始するたびに、使用するポートが変わります。これにより、外部トラフィックを名前付きインスタンスに許可するファイアウォールの設定が難しくなります。Microsoft は、スタティック ポートを使用するようにデータベース エンジンを設定し直すことを推奨しています。先の「[ネットワーク要件](#)」(ページ 5) を参照してください。

特定のポートをリッスンするように SQL サーバを設定する手順については、Microsoft TechNet の記事「[Configuring a Fixed Port](#)」を参照してください。

ファイアウォールを開いて SQL サーバトラフィックが通過できるようにするには、高度なセキュリティ アプリケーションを使用して Windows ファイアウォールを開きます。SQL サーバの Cisco TMS インスタンスが使用するポートに、インバウンドとアウトバウンドの両方の TCP トラフィックを許可する新しいルールを設定します。

SQL サーバのアクセスを許可するように Windows ファイアウォールを設定する方法の詳細については、Microsoft TechNet の記事「[Configuring the Windows Firewall to Allow SQL Server Access](#)」を参照してください。

Cisco TMS SQL サーバの設定

Cisco TMSAE が動作するには、SQL サーバで以下を有効にする必要があります。

- TCP/IP 接続
- リモート ログイン
- SQL Server Browser Windows サービス

デフォルトでは、組み込まれている Microsoft SQL Server Express Edition を使用する Cisco TMS のインストールで上記のすべてが無効です。

有効にするには、次の手順に従います。

1. 管理者アカウントを使用して Cisco TMS Windows サーバにログインします。
2. [スタート] メニュー > [すべてのプログラム] > [Microsoft SQL Server 2008] > [構成ツール] に移動し、[SQL Server 構成マネージャ] を選択します。
3. ツリー ビューで、[SQL Server ネットワークの構成] > [Protocols for SQLTMS] を探します。[TCP/IP] をクリックし、[有効にする] を選択します。サービスを再起動するまで変更が有効にならないこと伝える通知が表示されますが、まだサービスを再起動しないでください。
4. SQL Server Management Studio を起動します。
5. データベース インスタンスを右クリックし、[プロパティ] を選択します。
6. [接続] に移動します。
7. このサーバの [Allow remote connections] をオンにします。
8. SQL Server Configuration Manager に戻ります。
9. SQL Server Services をクリックします。
10. [SQL サーバ (SQL TMS) (SQL Server (SQL TMS))] を右クリックし、[リスタート (Restart)] を選択します。
11. [SQL Server Browser] を右クリックし、[開始 (Start)] を選択します。

Cisco TMSAE のインストール

Cisco TMSAE をインストールする前に、「[インストールの要件](#)」（ページ 2）を確認し、すべての要件を満たしていること、および必要なアクセス許可があることを確認します。

インストールの実行者に Active Directory と Microsoft SQL Server の完全なアクセス権限がない場合は、ソフトウェア インストーラを実行する前に、「[付録：データベースの事前設定](#)」（ページ 16）の指示に従います。

インストールの実行

インストーラは必要なコンポーネントとアクセス許可があることをチェックします。ない場合はインストールが停止します。インストールが停止する場合は、「[インストールの問題のトラブルシューティング](#)」（ページ 13）を参照してください。

[<< 検出 (<< Discover)] ボタンが表示されている場合は、このボタンを使用してインストール中に入力フィールドに自動的に入力できます。

Cisco TMSAE をインストールするには、次の手順に従います。

1. Cisco TMS をホストする Windows サーバにインストーラでアーカイブをコピーします。
2. 他に実行中のプログラムとセキュリティ/ウイルス対策ソフトウェアがあるとインストールを完了できない場合があるため、すべて閉じます。
3. **setup.exe** ファイルを抽出して実行します。インストーラの指示に従います。[次へ (Next)] をクリックして続行します。
4. 使用許諾契約書の条項に同意し、[次へ (Next)] をクリックします。
5. 必要に応じてデフォルトのインストール先フォルダを変更し、[次へ (Next)] をクリックします。
6. Cisco TMSAE をインストールするアプリケーション プールと仮想ディレクトリを選択します。
 1. Cisco TMSAE は専用のアプリケーション プールにインストールすることをお勧めします。特に IIS 7 を使用している場合、インストーラがアプリケーション プールを変更してこれまでにインストールされているアプリケーションに影響する可能性があるため、別のアプリケーション プールを使用することが重要です。
 2. 仮想ディレクトリの名前はデフォルトのままにすることをお勧めします。変更する場合は、区切り記号やスペースを使用しないでください。仮想ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されません。
 3. [次へ (Next)] をクリックします。
7. データ ウェアハウスのインストール モードで [今すぐ設定 (Configure Now)] を選択し、インストールを実行するユーザ認証情報、またはインストール時に入力した認証情報を使用して、インストーラが必要なコンポーネントを作成して設定できるようにします。（データベース管理者がすでにデータ ウェアハウス サーバを設定している場合に、[事前設定を使用 (Use Preconfigured)] オプションを使用してインストールする手順については、「[付録：データベースの事前設定](#)」（ページ 16）を参照してください）。[次へ (Next)] をクリックします。
8. データ ウェアハウス サーバのサーバ名または IP アドレスを入力し、認証方法を選択します。サポートされている認証方法は 2 つあります。どちらの方法でも、ユーザには選択した SQL サーバ上での *sysadmin* の役割と、Analysis Services への管理者アクセス権が必要です。[現在のユーザコンテキスト (Current User Context)]: 現在サインインしている Windows ユーザ アカウントを使用してインストールを完了する。[Windows 認証 (Windows Authentication)]: インストール手順で使用する代替的なユーザ アカウントのユーザ名とパスワードを指定する。[次へ (Next)] をクリックします。

Cisco TMSAE の設定

9. データ ウェアハウス サーバのその他の接続情報を指定します。
 1. データ ウェアハウス データベース アカウントのユーザ名とパスワードを入力します。ドメインを必ず入力します。大文字小文字を区別するように SQL サーバが設定されている場合があるため、大文字小文字に注意して資格情報を入力します。
 2. データベースの名前を入力します。デフォルトの名前は `tmsng_dwh` です。既存のデータベースの名前をここに入力することはできません。[次へ (Next)] をクリックします。
10. Cisco TM データベースの接続情報を指定します。
 1. サーバ名または IP アドレスを入力します。
 2. Cisco TM データベース (通常 `tmsng` と呼ばれる) に対する読み取りアクセス権を持つアカウントの SQL ユーザ名とパスワードを入力します。
 3. データベース名が正しいことを確認し、必要に応じて変更します。
 4. [次へ (Next)] をクリックします。
11. ETL (抽出、変換、読み込み) を設定します。
 1. パフォーマンスの問題を避けるために、Cisco TM データベースのインデックスの再作成プロセスとは別の時間帯に ETL ジョブをスケジュールすることをお勧めします。このスケジュールは、Cisco TMS に移動し、[管理ツール (Administrative Tools)] > [TMS サーバメンテナンス (TMS Server Maintenance)] を選択して、[データベースメンテナンス (Database Maintenance) セクションで確認します。また、これらの時間帯には Cisco TM データベースのバックアップのスケジュールもあります。
 2. [ETL をはじめて実行するときに TMS システムに従ってコールを解決する (Resolve calls to TMS systems when ETL is run for the first time)] : この設定は、ETL で最新の Cisco TMS システム情報を使用して履歴データにある ID を解決できるため、有効にすることをお勧めします。これは Cisco TMS が最初の ETL ジョブ後に収集するデータには影響しません。その後のすべてのコールは ETL ジョブの時点で解決されます。
 3. [次へ (Next)] をクリックします。
12. 次のダイアログ画面に、インストール時に使用する設定およびサーバの概要が表示されます。[インストール (Install)] をクリックして、インストール プロセスを開始します。
13. [完了 (Finish)] をクリックしてインストール ウィザードを終了します。
14. インストールの前に無効にしたセキュリティ/ウイルス対策ソフトウェアを再度有効にします。

Cisco TMSAE の設定

インストール後、以下の設定と確認の手順を実行します。

ユーザとグループのアクセス許可の設定

Analytics Extension をインストールした後、ユーザとグループのアクセス許可を設定する必要があります。ユーザには、Cisco TMSAE が提供するデータにアクセスするために、`tmsng_dwhAsDb` にある特別な役割を介して、データ ウェアハウス キューブへのアクセス権が与えられます。

Cisco TMSAE の設定

1. Microsoft SQL Server Management Studio を開き、Analysis Services に接続します。
2. [データベース (Databases)] > [tmsng_dwhAsDb] > [役割 (Roles)] を探し、[リーダー (Reader)] を開きます。
3. [メンバーシップ (Membership)] に移動し、接続を許可するアカウントを追加します。

Analytics Extension Web インターフェイスへのアクセスは、管理ツールに設定用のアクセス権がある Cisco TMS ユーザに制限されます。

1. Cisco TMS で、[管理ツール (Administrative Tools)] > [ユーザ管理 (User Administration)] > [グループ (Groups)] に移動し、アクセス許可を変更するグループにカーソルを置いてドロップダウン ボタンをクリックし、[権限の設定 (Set permissions)] を選択します。
2. [管理ツール (Administrative Tools)] セクションの [設定 (Configuration)] を表示し、[読み取り (Read)] と [更新 (Update)] の両方がオンになっていることを確認します。
3. 変更を行った場合は、[保存 (Save)] をクリックします。

ユーザには、Analytics Extension Web アプリケーションで値を変更し、ETL ジョブを開始できるように、更新用のアクセス権が必要です。ユーザ権限の管理の詳細については、『[Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension Administrator Guide](#)』を参照してください。

Web アプリケーションの設定

ソフトウェアのインストールが完了すると、Cisco TMS のインストールが更新され、Cisco TMSAE Web インターフェイスが追加されます。

1. Web サイトが適切に実行されていることを確認するには、Web ブラウザを開き、サイト管理者のアクセス許可があるユーザとして Cisco TMS にログインします。
 - Cisco TMS に次のエラー メッセージが表示される場合は、詳細について次のリンクに従ってください。
「[System.TypeLoadException : Could not load type 'System.ServiceModel.Activation.HttpModule'](#)」 (ページ 13)
 - すべてのコンポーネントが正しくインストールされている場合は、新しいメニュー項目の [管理ツール (Administrative Tools)] > [Analytics Extension] から Analytics Extension Web アプリケーションを開けます。
2. ユーザ名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示される場合は、Cisco TMS の資格情報を入力します。
3. インストール中、または事前設定済みのスクリプトで仮想ディレクトリ名を変更した場合、Cisco TMS は仮想ディレクトリの完全な URL を入力するようにプロンプトを表示します (例: <http://tms.example.com/analytics>)。URL を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

Cisco TMSAE の設定

The screenshot shows the Cisco TMS Portal interface. The 'Administrative Tools' menu is open, and 'Analytics Extension' is highlighted with a red circle. The portal displays various system metrics and a 'System Usage' graph showing 'Booked Endpoints' and 'Endpoints in Call' over time.

Cisco TMSAE Web アプリケーションの URL は Cisco TMS で後から変更することもできます。[管理ツール (Administrative Tools)] > [設定 (Configuration)] > [全般設定 (General Settings)] に移動し、[Analytics Extension 管理 URL (Analytics Extension Admin URL)] フィールドを探します。

The screenshot shows the 'General Settings' page in the Cisco TMS Administrative Tools. The 'Advanced Reporting Admin URL' field is highlighted with a red circle and contains the value: `http://analytics.reporting.tms.lab/AnalyticsExtension/`.

ETL タスクの確認

ETL タスクは、Cisco TMS から手動で開始できます。成功したかどうかはログで確認できます。通常、ETL タスクは、インストール時に指定した時間に毎日実行されます。

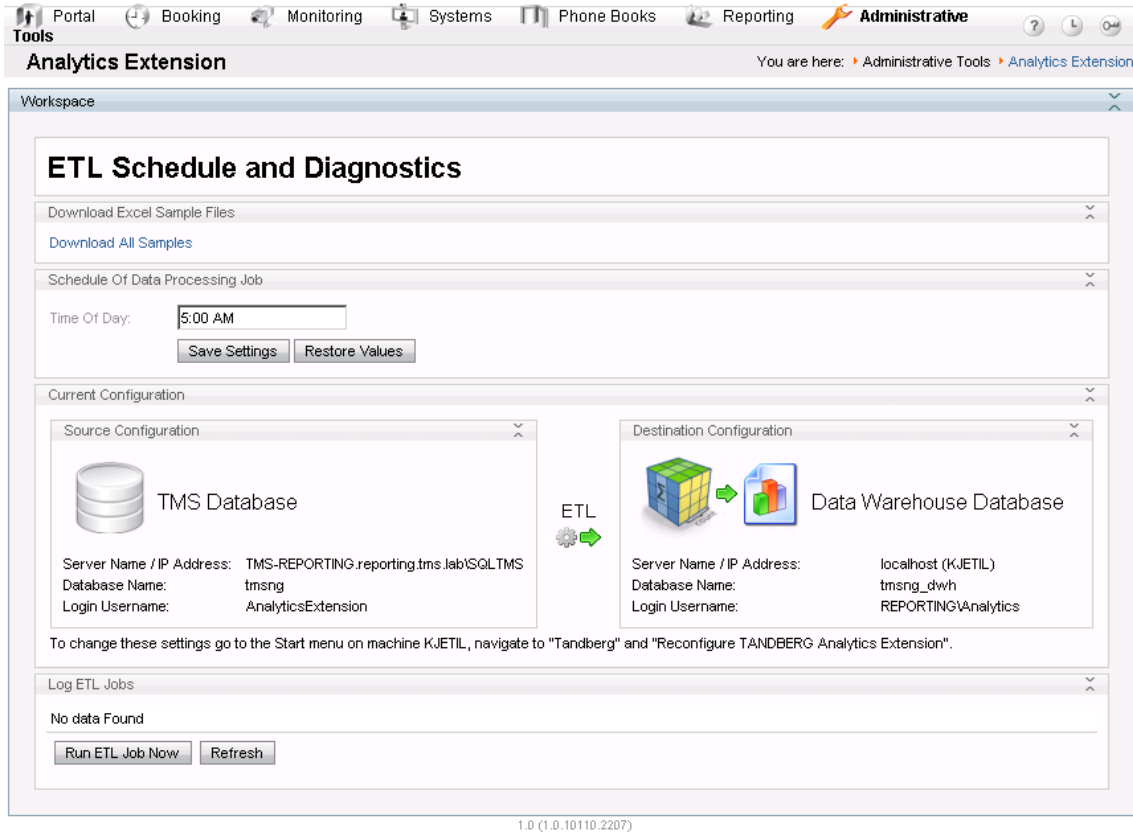
初期データは読み込むサイズが大きいため、最初の ETL ジョブの実行には長時間かかり、Cisco TMS SQL サーバやデータウェアハウスサーバに高い負荷をかけることがあるため注意してください。Cisco TMS を長期間、かなりアクティブに利用していた場合は、初期 ETL タスクの完了に数時間かかることもあります。

Cisco TMSAE のアップグレード

このため、通常の運用に影響を及ぼす場合は、このタスクの開始をお勧めしません。2 回目以降の実行は、前回実行した ETL タスク以後に取得されたデータのみを処理するため、それほど時間はかかりません。

ETL タスクを正しく実行できることを確認するには、次の手順に従います。

1. Web ブラウザを開き、サイト管理者のアクセス許可があるユーザとして Cisco TMS にログインします。
2. [管理ツール (Administrative Tools)] > [Analytics Extension] を選択し、Cisco TMSAE Web インターフェイスを開きます。



3. [ETL ジョブを今すぐ実行 (Run ETL Job Now)] ボタンをクリックし、ETL タスクを開始します。[ETL ジョブのログ (Log ETL Jobs)] パネルに ETL タスクのログが表示されます。[更新 (Refresh)] をクリックし、最新の変更を表示します。
 - タスクが完了すると、ログ テーブルが更新されて緑のチェックマークとタスクにかかった合計時間が表示されます。
 - タスクが失敗すると、ログ テーブルに詳細情報が表示されます。トラブルシューティング情報については、『[Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension Administrator Guide](#)』を参照してください。

Cisco TMSAE のアップグレード

このセクションでは、最新バージョンの Cisco TMSAE にアップグレードする方法について説明します。

注意：バージョン 1.0 および 1.1 から 1.1 に直接アップグレードすることはできません。これらのバージョンのいずれかを実行している場合は、1.1 をインストールする前に、製品をアンインストールする必要があります。

1.1 から 1.2 へのアップグレード

開始する前に、データ ウェアハウス データベースと Analytics Extension の Windows サービス アカウントの名前をメモします。これらの名前は、再インストールで入力する必要があります。

アップグレードするには、次の手順に従います。

1. 古いソフトウェア バージョンをアンインストールします。「Cisco TMSAE のアンインストール」 (ページ 12) の手順に従います。問題なくアップグレードを完了するには、データ ウェアハウス データベースをそのままの状態に残す必要があるため、データ ウェアハウスのコンポーネントを削除しないでください。
2. **TANDBERG Analytics Extension Windows** サービスが正しく削除されたことを確認します。[無効 (Disabled)] の状態のまま削除されていない場合は、Cisco TMS サーバを再起動してこのサービス ソフトウェアを完全に削除します。
3. インストーラを「インストールの実行」 (ページ 7) の説明に従って実行し、[事前設定を使用 (Use Preconfigured)] オプションを選択します。
4. インストールを続行します。「ソフトウェア インストーラの実行」 (ページ 20) および「付録：データベースの事前設定」 (ページ 16) を参照してください。

すぐに ETL ジョブを実行してインストールを確認できます。「ETL タスクの確認」 (ページ 10) を参照してください。

Cisco TMSAE のアンインストール

アンインストールする前に、Analytics Extension Windows サービスを手動で停止することをお勧めします。アンインストールする前にサービスを停止しないと、アンインストーラで削除できないことがあります。アンインストーラがサービスを削除できなかった場合は、アンインストール後にサーバを再起動する必要があります。

Cisco TMSAE がインストールされているサーバで、次の手順を実行します。

1. [スタート] メニュー > [管理ツール] > [サービス] を使用し、**TANDBERG Analytics Extension Service** という名前のサービスを探します。
2. [サービスの停止] をクリックします。
3. [スタート] メニュー > [コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] に移動し、TANDBERG Analytics Extension を選択して [削除] を選択します。
4. 製品を本当にアンインストールすることを確認します。

アンインストールでは、データ ウェアハウス データベース、データ ウェアハウス キューブ、関連付けられているサーバオブジェクトは削除されません。

Cisco TMSAE の完全な削除

データベース サーバからの削除

このプロセスは、データ ウェアハウスに格納されているすべてのデータを破棄しますが、Cisco TMS データベースが保有しているデータには影響しません。Cisco TMS データベースから削除されている古いコール データは、今後 Cisco TMSAE をインストールした場合でも回復されません。

インストールの問題のトラブルシューティング

1. SQL Server Management Studio を開き、[サーバタイプ (Server type)] をデータベース エンジンに設定し、データ ウェアハウス SQL サーバ インスタンスに接続します。
2. [データベース (Databases)] で、データ ウェアハウス データベースを削除します。デフォルト名は、**tmsng_dwh** です。
3. [サーバオブジェクト (Server Objects)] > [リンクサーバ (Linked Servers)] で、**TMSREPORTING_SRC** で始まっているリンク サーバのエントリを探します。エントリを削除します。
4. SQL Server Management Studio を開き、[サーバタイプ (Server type)] を **Analysis Services** に設定し、データ ウェアハウス Analysis Services インスタンスに接続します。
5. [データベース (Databases)] で、**tmsng_dwhAsDb** データベースを削除します。

Cisco TMS サーバからの削除

Cisco TMSAE がインストールされている Cisco TMS サーバで、レジストリ エディタを開き、関連するレジストリ キー ハイブを削除します。

バージョン 1.1 の削除：

- **HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Tandberg\TANDBERG Management Suite\Reporting**
- **HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Tandberg\TANDBERG Analytics Extension**

バージョン 1.2 の削除：

- **HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Tandberg\Cisco TMSAE**
- **HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Tandberg\Cisco TMSAE**

Cisco TMS の [管理ツール (Administrative Tools)] メニューから **Analytics Extension** を削除するために、関連するオプション キーを削除する必要はありません。

1. 管理者アカウントを使用して Cisco TMS の SQL Server データベース エンジンにログインします。
2. [データベース (Databases)] > [tmsng] > [テーブル (Tables)] > [dbo.OptionKeys] を探します。テーブルを開き、Analytics Extension のオプション キーを削除します。

Cisco TMS はオプション キーのキャッシュを作成しているため、すぐに変更を有効にするには、Cisco TMS アプリケーション プール **TMSNet20AppPool** を再起動する必要があります。

インストールの問題のトラブルシューティング

System.TypeLoadException : Could not load type 'System.ServiceModel.Activation.HttpModule'

Cisco TMS に未処理の例外を示すエラー メッセージ「System.TypeLoadException : Could not load type 'System.ServiceModel.Activation.HttpModule'」が表示される場合、.NET 4.0NET の後に .NET 3.5 がインストールされています。

インストールの問題のトラブルシューティング

この問題を解決するには、次の手順に従います。

1. Windows コマンド プロンプトを管理者として開きます。
2. `aspnet_regiis.exe` があるフォルダにディレクトリを変更します。
 - 32 ビット サーバ：`%windir%\Microsoft.NET\Framework\v4.0.30319`
 - 64 ビット サーバ：`%windir%\Microsoft.NET\Framework64\v4.0.30319`
3. 次のコマンドを実行します。 `aspnet_regiis.exe /iru`

指定したサーバに接続できない

考えられる原因は次のとおりです。

- 不正なインスタンス名：名前付きインスタンスで SQL サーバが実行されていること、および完全なサーバインスタンス名を指定していることを確認します。接続情報を確認するには、SQL Server Management Studio のコピーを使用してサーバにログインしてみる方法が便利です。サーバ名とインスタンス名は、SQL サーバにインストールされている SQL Server Configuration Manager ユーティリティを使用しても確認できます。
- SQL Server Analysis Services と SQL サーバ データベース エンジンのインスタンス名が一致しない：Analysis Services とデータベース エンジンが同じインスタンス名であることを確認します。
- リモート接続が有効になっていない：SQL サーバがリモート SQL 接続を許可するように設定されていることを確認します。詳細については、Microsoft の KB 記事 (<http://support.microsoft.com/kb/914277>) を参照してください。
- ファイアウォールのブロッキング：サーバ上、またはサーバ間のネットワーク上にあるファイアウォールが SQL または SSAS トラフィックをブロックしていないことを確認します。SQL サーバと SSAS トラフィックは、デフォルトで TCP ポート 1433 および 2383 を使用します。名前付きインスタンスは、ダイナミック TCP ポートを使用する場合があります。
- 指定したユーザ アカウント情報が正しくない：SQL Server Management Studio、または `osql` コマンド ラインを使用して資格情報を確認し、指定されたサーバへのログインを試行します。
- Windows サービスの「SQL Server Browser」が実行されていない：このユーティリティは、Cisco TMS サーバ上で SQL Server 2005 Surface Area Configuration Manager を開き、[サービスと接続のセキュリティ構成] に移動して開始できます。

指定したサーバに接続できない場合は、指定したサーバ名または IP アドレスが正しいこと、サーバが完全修飾ドメイン名を使用してアクセスできること、指定したユーザが必要なアクセス許可を持っていることを確認してください。

「[Cisco TMS SQL サーバの設定](#)」セクションを確認してください。

Cisco TMS サーバ アプライアンス ボックスおよび付属の SQL Server Express Edition を使用してインストールした Cisco TMS では、Analytics Extension を動作させるために追加の設定が必要です。

指定したアカウントの存在を確認できない

不正なユーザ アカウント情報が指定されました。SQL Server Management Studio を使用して、または `osql` コマンド ラインを使用して、指定されたサーバにログインして資格情報を確認します。

インストールの問題のトラブルシューティング

エラー 2318

このエラーは、インストール、またはアンインストールに失敗した後に再度インストールしようとする则表示されることがあります。サーバを再起動し、インストーラを再度実行します。

権限が不十分

MSI (s) (48:B0) [10:07:28:305] : 製品 : TANDBERG Analytics Extension -- エラー 1923。サービス「TTANDBERG Analytics Extension Service」(TandbergAnalyticsExtensionService) をインストールできませんでした。システム サービスをインストールするための十分な権限があることを確認します。

このエラー メッセージは、Analytics Extension Windows サービスが前に実行したアンインストールで完全に削除されていない場合に発生します。この問題を確認するには、次の手順に従います。

1. Cisco TMS サーバで、[スタート] メニュー から [管理ツール] > [サービス] を開きます。Cisco TMS Analytics Extension という名前のサービスがある場合、アンインストーラは前にインストールされていたサービスを正しく削除できませんでした。
2. 問題を修正するために Cisco TMS サーバを再起動します。

接続タイムアウト数

System.Reflection.TargetInvocationException : 呼び出しのターゲットによって例外がスローされました。 --->

System.Transactions.TransactionAbortedException : トランザクションが中断されました。 ---> System.TimeoutException : トランザクションのタイムアウト

.NET 接続タイムアウトが原因でインストーラが失敗した可能性があります。デフォルトのトランザクションのタイムアウトは 1 分です。これは、Cisco TMS サーバが非常に遅い場合に発生します。発生する場合、インストーラは一般的なエラー メッセージで失敗します。上記のメッセージはインストール ログ ファイルに表示されます。デフォルトのトランザクション タイムアウト値は、Cisco TMS サーバの **machine.config** ファイルで増やせます。

1. テキスト エディタで **C:\Windows\Microsoft.NET\Framework\v2.0.50727\CONFIG\machine.config** を開きます。
2. <configuration> 要素で、以下を追加します。

```
<system.transactions>
  <defaultSettings timeout="00:05:00" />
</system.transactions>
```
3. ファイルを保存して、閉じます。

不明なエラー

インストーラが完了できない、終了する、その他不明なエラーを表示する場合は、インストーラ ログで手がかりを探します。

インストーラ ログ

インストーラは、インストール ログ ファイルを自動的に作成します。これらのファイルは、Analytics Extension のディレクトリ、デフォルトで **C:\Program Files\Cisco\TMSAE** にあります。

付録：データベースの事前設定

インストール中にインストーラが失敗する場合は、これらのインストール ログが非表示の一時フォルダ **C:\Users\{USERNAME}\AppData\Local\Temp** にあります。

メインのログ ファイルは、**AnalyticsExtension_v1.100001.log** です。使用するオペレーティング システムに応じて、**AnalyticsExtension_v1.100001_UI.log** という名前のファイルも作成されることがあります。このファイルは、同じ内容がメイン ログにも記載されているため、無視してかまいません。

付録：データベースの事前設定

Cisco TMSAE アプリケーションが使用するデータ ウェアハウスは、事前に設定できます。これは、組織のビデオ管理者に、完全な Active Directory の管理者権限がない場合や Microsoft SQL Server の管理者権限がない場合に便利です。

setup.exe インストーラには、簡単に事前設定が実行できるように追加のファイルが付属しています。

- **PrepareDatabase.sql** は、Microsoft SQL Server Query ファイルです。
- **PrepareAnalysisServiceDatabase.xml** は、XML for Analysis ファイルです。

データベース管理者は、これらのファイルを使用してデータベースを事前に設定することで、インストーラが行うすべての変更をデータ ウェアハウス サーバを作成および変更する前に確認できます。

スクリプトは、組織の固有の情報を使用してカスタマイズするように設計されています。このスクリプトを以下の指示に従って使いながら、Analytics Extension が使用するデータ ウェアハウス サーバを設定します。

スクリプトは、**setup.exe** の前にカスタマイズして実行する必要があります。

サービス ユーザ アカウントの指定

DWH サービス ユーザと DWH TMS サービス ユーザ アカウントは、データ ウェアハウス サーバを事前に設定する前に作成する必要があります。

1. Active Directory 管理者に DWH サービス ユーザとして使用するのに適した Windows ドメイン アカウントを作成してもらいます（ドメインにない場合）。このアカウントには、スクリプト ファイルで追加するデータ ウェアハウス サーバ インスタンスで必要になるアクセス権が設定されている必要があります。
2. SQL 管理者に DWH TMS サービス ユーザが使用する SQL ログイン情報を作成してもらいます（このアカウントが Cisco TMS SQL サーバに存在していない場合）。ユーザ アカウントには、少なくとも *db_datareader* のアクセス許可が必要です。

SQL の設定スクリプト ファイルのカスタマイズと実行

データ ウェアハウス サーバとして使用する SQL（および SSAS）サーバに対して *sysadmin* の役割を持つ管理者が必要です。Microsoft SQL Server Management Studio を使用する手順を説明します。

1. Microsoft SQL Server Management Studio を開きます。
2. **PrepareDatabase.sql** を開きます。使用する接続をたずねるプロンプトが表示されるため、データ ウェアハウス SQL サーバとして使用するデータベース インスタンスを必ず指定し、*sysadmin* 役割のユーザとしてログインします。

付録：データベースの事前設定

3. 「Make sure the following values have the correct values for your installation」で始まり、「END of customization section」で終わるセクションを除いて、このスクリプトに変更を加えないでください。

```

-- #####
-- Make sure the following values have the correct values for your installation
-- #####

SET @TmsDatabaseServer = '<TMS_SERVER_FQDN>'
SET @TmsReadUserName = '<USERNAME>'
SET @TmsDatabaseName = 'tmsng'
SET @TmsReadUserPassword = '<PASSWORD>'
SET @EtlStartTime = '04:15:00' -- HH:MM:SS
SET @EtlResolveSystemsOnInitialLoad = 1

-- You can safely leave this at its default
SET @DwhDatabaseName = 'tmsng_dwh'

-- Specify the login that will be assigned the db_owner role for the
-- reporting database. This user will be used by the administrative
-- webapp to connect to the reporting database, and by the installer
-- when installing the database objects.

SET @DwhDatabaseUserName = '<DOMAIN_ACCOUNT>'
|
-- #####
-- END of customization section
-- #####

```

スクリプトのカスタマイズ可能な部分は、SET コマンドでのみ構成されており、各行は前に宣言されたローカル変数を任意の値に設定します。

4. **<TMS_SERVER_FQDN>** を Cisco TMS データベース サーバの完全修飾名または IP アドレスで置き換えます。該当する場合は、インスタンス名を含めます。
例：SET @TmsDatabaseServer = 'tms-reporting.reporting.example.com\sqltms'
5. **<USERNAME>** を DWH TMS サービス ユーザに使用する SQL ログインの名前で置き換えます。
例：SET @TmsReadUserName = 'AnalyticsExtension'
6. **<PASSWORD>** を指定した DWH TMS サービス ユーザのパスワードで置き換えます。
7. ETL ジョブを実行する時間を選択します。

パフォーマンスの問題を避けるために、Cisco TM データベースのインデックスの再作成プロセスとは別の時間帯に ETL ジョブをスケジュールすることをお勧めします。このスケジュールは、Cisco TMS に移動し、[管理ツール (Administrative Tools)] > [TMS サーバメンテナンス (TMS Server Maintenance)] を選択して、[データベースメンテナンス (Database Maintenance) セクションで確認します。また、これらの時間帯には Cisco TM データベースのバックアップのスケジュールもあります。

付録：データベースの事前設定

8. **EtlResolveSystemsOnInitialLoad** を 1（有効）、または 0（無効）に設定し、初回実行時に ETL タスクで Cisco TMS システムを解決するかどうかを制御します。

これにより、最新の Cisco TMS システム情報を使用して履歴データにある ID を解決できるため、有効にすることをお勧めします。これは Cisco TMS が最初の ETL ジョブ後に収集するデータには影響しません。その後のすべてのコールは ETL ジョブの時点で解決されます。

9. データ ウェアハウスの名前をカスタマイズする場合は、**tmsng_dwh** を置き換えます。データ ウェアハウス サーバ上の既存のデータベースと競合する名前は使わないでください。
10. **<DOMAIN ACCOUNT>** を DWH サービス ユーザとして使用する Windows ドメインとユーザ名で置き換えます。
例：SET @DwhDatabaseUserName = 'REPORTING\Analytics'
11. 変更内容のすべてが正しいこと、構文に誤りがないことを確認します。

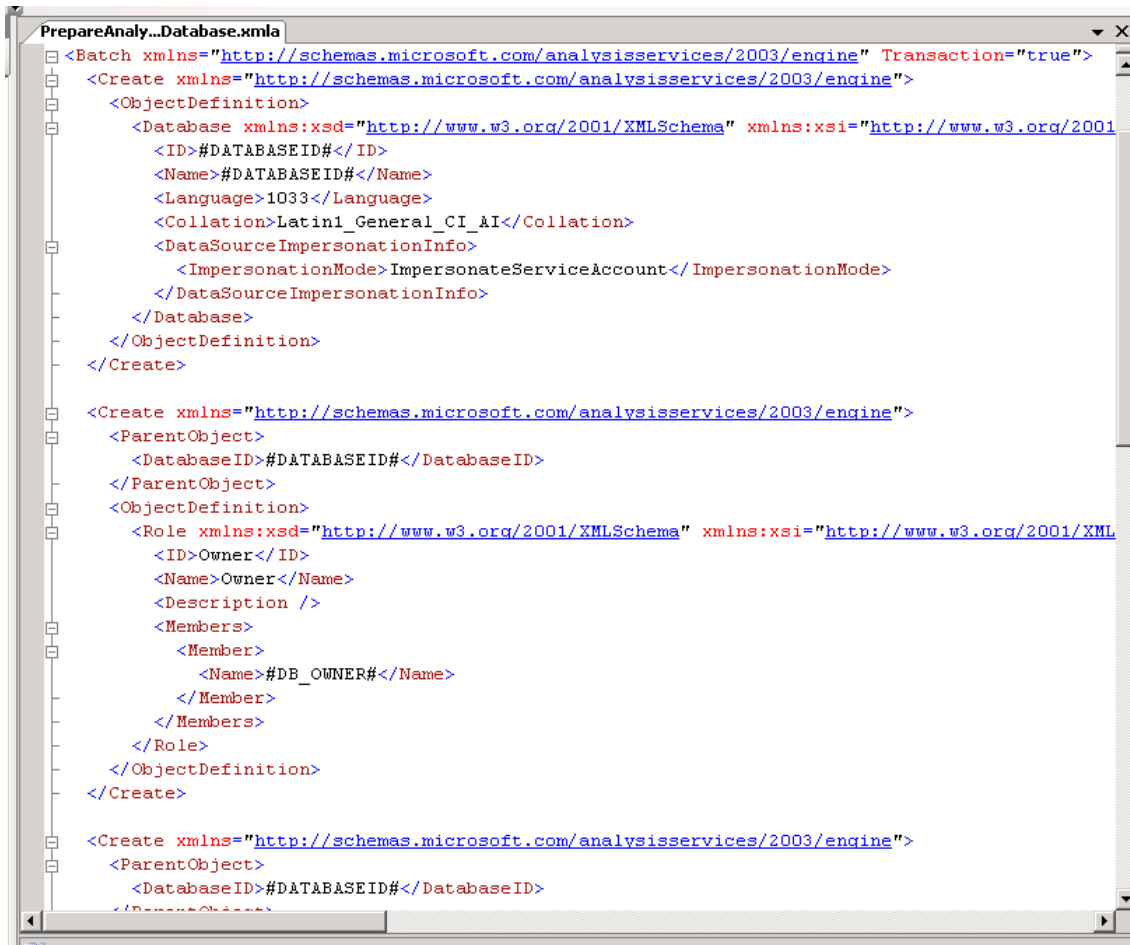
すべての文字列が単一引用符で囲まれていることを確認します。SQL Server Management Studio がチェックするのは SQL 構文のみなので、入力する情報自体が間違っていない、エラーが検出されるわけではないことに注意してください。先に進む前に、すべてのユーザとアドレス情報が正しいことを確認します。

12. スクリプト ウィンドウで右クリックし、[実行 (Execute)] を選択してスクリプトを実行します。
 - データベースが正しく設定されると、スクリプトの下に確認メッセージが数秒間表示されます。
 - エラーが発生した場合は、すべての変更がロールバックされ、該当するエラー メッセージが表示されます。エラー メッセージが表示された場合のトラブルシューティングについては、『[Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension Administrator Guide](#)』を参照してください。

Analysis Services の設定スクリプト ファイルのカスタマイズと実行

1. Microsoft SQL Server Management Studio を開き、Analysis Services に接続します。
2. **PrepareAnalysisServiceDatabase.xml** を開きます。使用する接続をたずねるプロンプトが表示されるので、データ ウェアハウス サーバの名前を指定します。

付録：データベースの事前設定



3. [検索と置換] を使用して、#DATABASEID# のすべてのインスタスを AsDb を付けたデータ ウェアハウス データベースの名前で置き換えます。

例：デフォルト名「tmsng_dwh」を使用していた場合は、

```
<DatabaseID>#DATABASEID#</DatabaseID>
```

を

```
<DatabaseID>tmsng_dwhAsDb</DatabaseID>
```

で置き換えます。

4. #DB_OWNER# を DWH サービス ユーザ アカウントの Windows ユーザ名で置き換えます。

例：上記の例と同じドメインとアカウントの場合：

```
<Name>REPORTING\Analytics</Name>
```

5. スクリプト ウィンドウで右クリックし、[実行 (Execute)] を選択してスクリプトを実行します。

- スクリプトが正しく実行されると、数秒後にスクリプトの下に XML 形式で「empty」を伝えるメッセージ ウィンドウが表示されます。
- エラーが発生した場合は、すべての変更がロールバックされ、該当するエラー メッセージが表示されます。エラー メッセージが表示された場合のトラブルシューティングについては、『[Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension Administrator Guide](#)』を参照してください。

参考文献

ソフトウェア インストーラの実行

事前設定のスク립トが完了したら、Cisco TMSAE ソフトウェア インストーラを実行します。

1. 他に実行中のプログラムとセキュリティ/ウイルス対策ソフトウェアがあるとインストールを完了できない場合があるため、すべて閉じます。
2. **setup.exe** ファイルを抽出して実行します。インストーラの指示に従います。[次へ (Next)]をクリックして続行します。
3. 使用許諾契約書の条項に同意し、[次へ (Next)]をクリックします。
4. 必要に応じてデフォルトのインストール先フォルダを変更し、[次へ (Next)]をクリックします。
5. Cisco TMSAE をインストールするアプリケーション プールと仮想ディレクトリを選択します。
 1. Cisco TMSAE は専用のアプリケーション プールにインストールすることをお勧めします。特に IIS 7 を使用している場合、インストーラがアプリケーション プールを変更してこれまでにインストールされているアプリケーションに影響する可能性があるため、別のアプリケーション プールを使用することが重要です。
 2. 仮想ディレクトリの名前はデフォルトのままにすることをお勧めします。変更する場合は、区切り記号やスペースを使用しないでください。仮想ディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されません。
 3. [次へ (Next)]をクリックします。
6. データ ウェアハウスのインストールに、[事前設定を使用 (Use Preconfigured)]を選択し、[次へ (Next)]をクリックします。
7. データ ウェアハウス サーバの接続情報を指定します。このとき、**PrepareDatabase.sql** ファイルに使用されているのと同まったく同じ値を入力してください。
8. インストーラは、ETL ジョブの設定をたずねます。これらの設定はインストール時に事前設定のスク립トによって書ききされるため、ここで変更する必要はありません。[次へ (Next)]をクリックします。
9. 次のダイアログ画面に、インストール時に使用する設定およびサーバの概要が表示されます。[インストール (Install)]をクリックして、インストール プロセスを開始します。
10. [完了 (Finish)]をクリックしてインストール ウィザードを終了します。

参考文献

最新バージョンの Cisco TMSAE に関するドキュメントはすべて、
http://www.cisco.com/en/US/products/ps11472/tsd_products_support_series_home.html で入手できます。

タイトル	リンク
<i>Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension Release Notes (1.2)</i>	http://cisco.com
<i>Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension Administrator Guide</i>	http://cisco.com
<i>Cisco TelePresence Management Suite Analytics Extension Reference Guide</i>	http://cisco.com
<i>Configuring the Windows Firewall to Allow SQL Server Access</i>	http://technet.microsoft.com
<i>Configuring a Fixed Port</i>	http://technet.microsoft.com
<i>Installing SQL Server Analysis Services (SQL Server 2005)</i>	http://technet.microsoft.com/
<i>Considerations for Installing Analysis Services (SQL Server 2008)</i>	http://msdn.microsoft.com/

シスコの法的情報

シスコの法的情報

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

ハード コピーおよびソフト コピーの複製は公式版とみなされません。最新版はオンライン版を参照してください。

シスコは世界各国 200 箇所にオフィスを開設しています。各オフィスの住所、電話番号、FAX 番号は当社の Web サイト (www.cisco.com/go/offices) をご覧ください。

© 2017 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

シスコの商標

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: www.cisco.com/go/trademarks. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)